

オポナカムラ 彩発見!!

さいはっけん

オポナカムラは古代語で「大中村」の意。
 国指定史跡「大中遺跡」の最新の調査をもとに、様々な観点から
 ふるさとの誇れる遺跡について考えてみたいと思います。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000



播磨町マスコットキャラクター
いせきくん、やよいちゃん

焼失住居跡



10 焼失した住居跡は戦乱の痕!?

弥生時代後期は、鉄器が一段と普及したことから、最初の「技術革新」と言えるほど大きな変革期でした。しかし、大中遺跡をはじめ近畿地方では、鉄器がそれほど多く見つかっていません。これは、鉄器が錆びて無くなってしまうたが、鉄が貴重な資源だったので壊れた鉄器を生かして再利用したからだと考えられています。

大中遺跡では、鉄で作られたヤスや矢じり、ヤリガンナが見つかっています。鉄のヤスは珍しく、魚を突き刺して捕る道具として使われました。矢じりは、狩りのための道具から戦いの武器としても使われました。ヤリガンナは、木を削る道具で、石の道具に比べ4分の1程度の時間で削れるようになりました。また、柱には継ぎ手などの細かな加工を施したり、柱の組み手を複雑にしたりするなど、頑丈で精度の高い家が造られるようになりました。

現在、大中遺跡の発掘調査は約2割が終わり、73棟の住居跡が見つかっています。この割合だと365棟があったことになりませんが、一部分しか見つかっていない住居跡も多く、実際には250棟ぐらい

だったと考えられています。また、弥生時代後期の終わり（2世紀後半）ごろに建っていた家の約6割（26棟のうち15棟）が焼失していたことがわかっています。家の耐用年数を20年と考えると、同時期に存在した家（平均25棟）の大半が焼失していたことになりました。冬に火災が発生し、突風にあおられて飛び火したとしても、すべてを焼き尽くすとは考えにくいし、竜巻に襲われて発火したなら、吹き飛ばされて焼失跡が残らないことになります。

そこで、大中遺跡と同時期に存在した神戸市西区池上口ノ池遺跡と垂水区大歳山遺跡に目を向けてみると、両方のムラとも集落全体が焼失しています。この時期は、大きな戦いが各地で起こっていた「倭国乱」の時期と一致しています。オポナカムラも、火事による類焼ではなく、意図的に焼かれたとしか考えられず、戦乱に巻き込まれて焼き打ちされた可能性が高くなっています。

タイムトラベル（時空を超えた旅）ができるなら、「激動期で新しい時代への息吹が感じられるオポナカムラの時代」へ旅してみたいものです。

町の人口 12月1日現在

(住民基本台帳人口+外国籍人口)
 34,204人(+14人) 男…16,795人(+5人) 世帯数…13,647(+17)
 女…17,409人(+9人)

